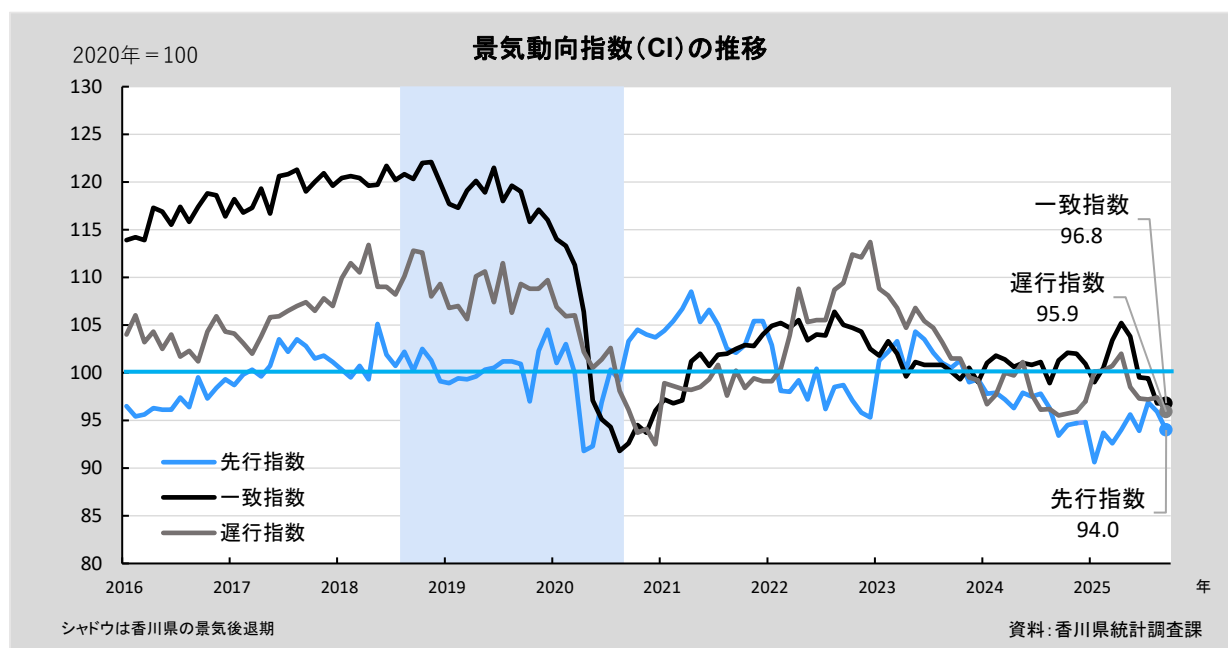


概況	持ち直している。
個人消費	緩やかな増加基調にある。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	持ち直しの動きに弱さがみられる。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出は増加、輸入は減少している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI)

一致指数 前月と同水準



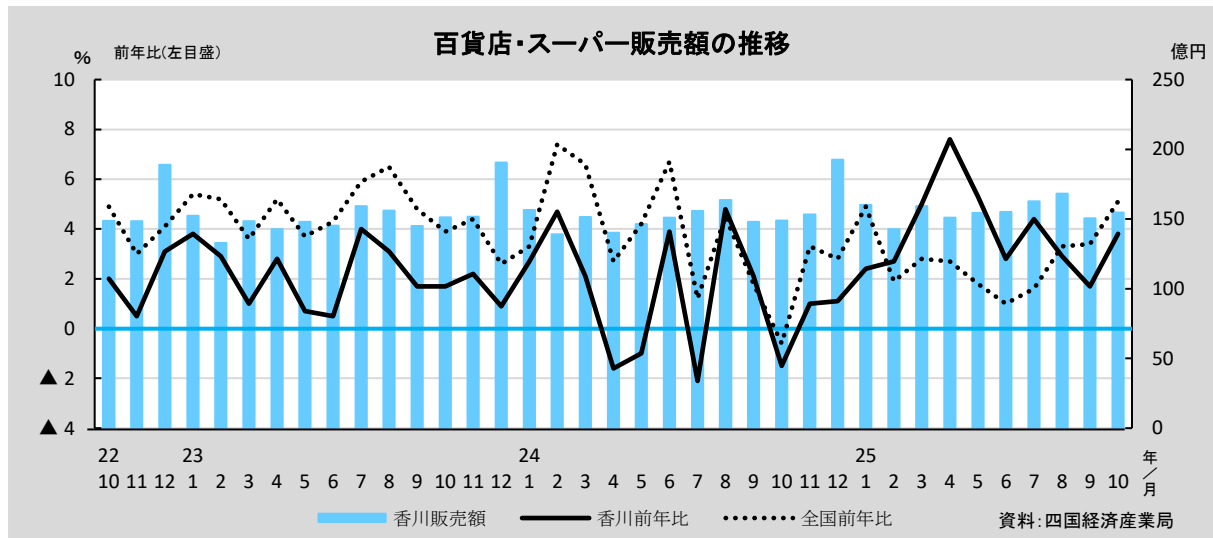
景気の現状をみると、9月のCI一致指数は96.8（前月比0.0ポイント）と前月と同水準。CI先行指数は94.0（同▲1.9ポイント）と2カ月連続で下降。CI遅行指数は95.9（同▲1.5ポイント）と2カ月ぶりに下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数等が上昇に寄与、建築着工床面積等が下降に寄与し、前月と同水準となった。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.80	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.60	1 常用雇用指数	▲ 0.71		
	2 乗用車新車登録台数		2 有効求人倍率	▲ 0.01	2 有効求職者数	0.23		
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.94	3 所定外労働時間指数	0.07	3 消費者物価指数	▲ 0.09		
	4 新設住宅着工戸数	▲ 2.05	4 鉱工業生産指数	0.77	4 家計消費支出	▲ 0.41		
	5 金融機関貸出残高	1.22	5 鉱工業出荷指数	0.74	5 鉱工業在庫指数	0.72		
	6 消費者態度指数	0.61	6 建築着工床面積	▲ 0.81	6 法人事業税調定額	▲ 1.18		
			7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.20	7 第3次産業活動指数	▲ 0.06		

●百貨店・スーパー販売額

12 カ月連続増加 ↑

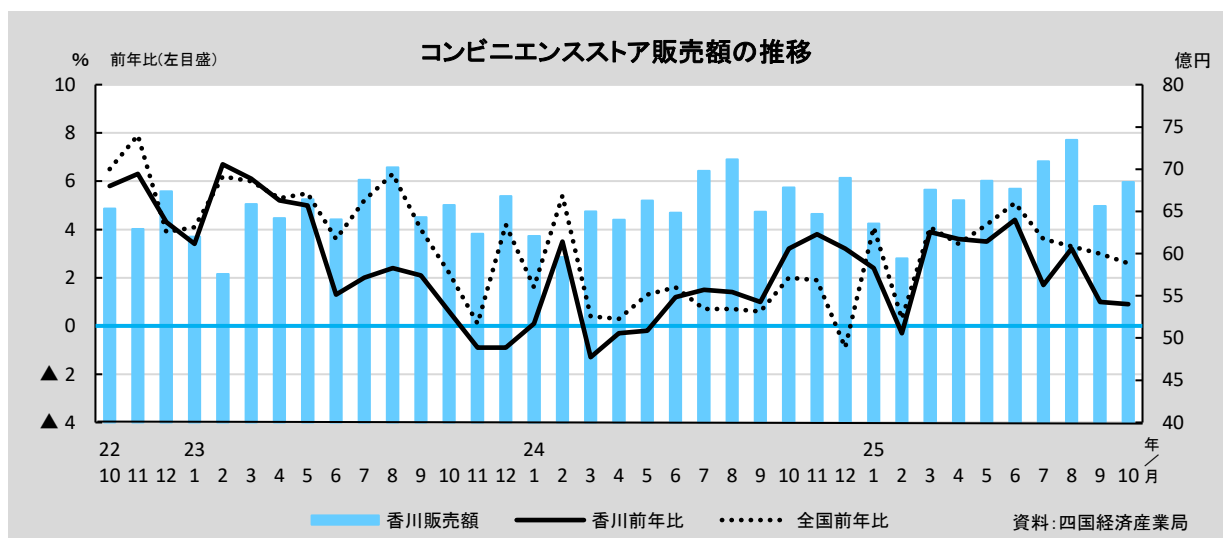


2025/10月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(百万円)	1,044	505	11,630	22	37	679	1,543	5	15,466
前年同月比(%)	▲ 2.5	▲ 7.5	4.9	6.8	0.5	▲ 1.5	6.9	7.9	3.8

10月の百貨店・スーパー全店(89店)の販売額は154.7億円で、前年同月比+3.8%と12カ月連続で増加した。「飲食料品」は米の高値が続いているほか、冷凍食品や総菜が堅調に推移し同+4.9%、「その他の商品」は高級時計や宝飾品などの高額品が好調で同+6.9%と前年を上回った。一方、「身の回り品」はインポートバッグなどの動きが鈍く同▲7.5%と減少した。

●コンビニエンスストア販売額

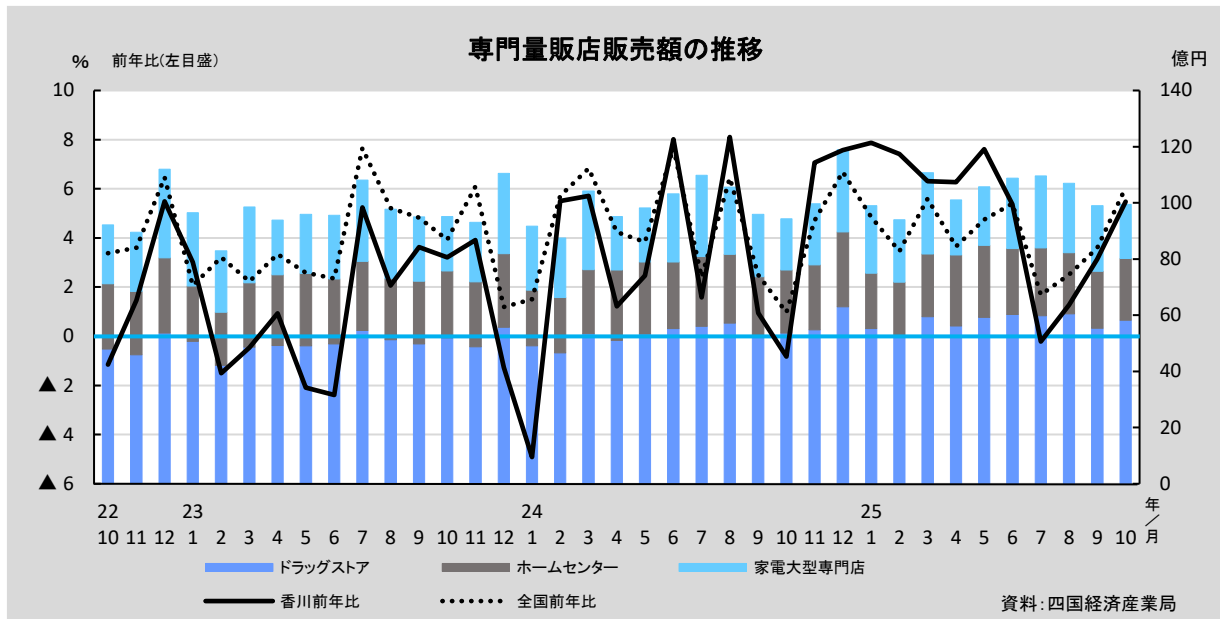
8 カ月連続増加 ↑



10月のコンビニエンスストア全店(407店)の販売額は68.5億円で、前年同月比+0.9%となり、8カ月連続で増加した。

●専門量販店販売額

3 カ月連続増加

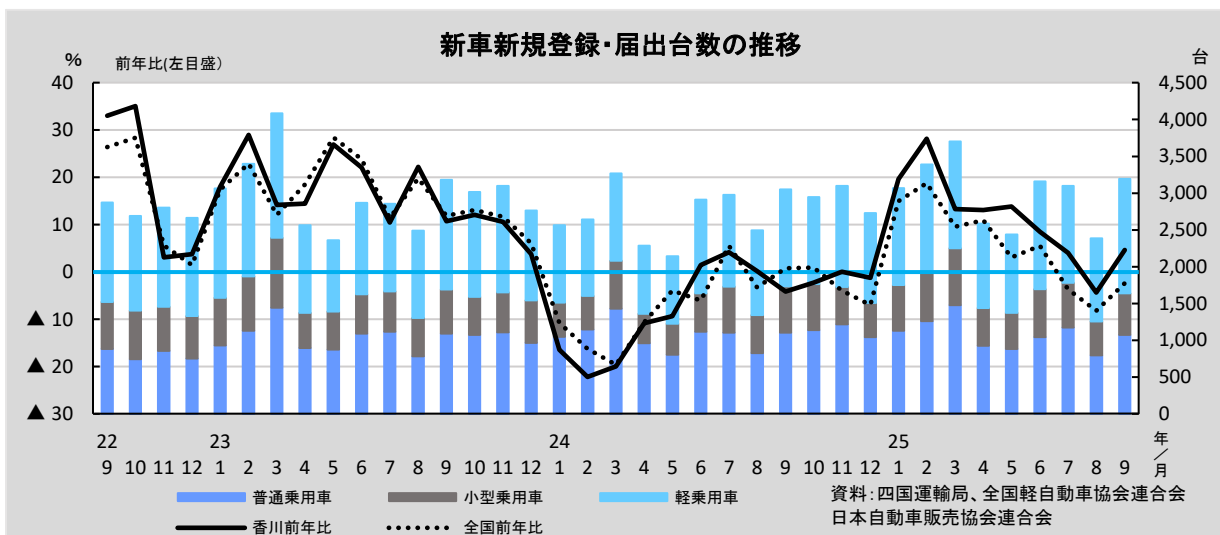


10月の専門量販店全店（233店）の販売額 99.5 億円で、前年同月比+5.5%と3カ月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（27店）の販売額は 19.3 億円で前年同月比+5.8%となった。**ドラッグストア**（160店）の販売額は、58.2 億円で同+8.5%となった。**ホームセンター**（46店）の販売額は、22.0 億円で同▲2.0%となった。

●新車新規登録・届出台数

2 カ月ぶり増加



9月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は 3,192 台で、前年同月比+4.6%と2カ月ぶりに増加した。

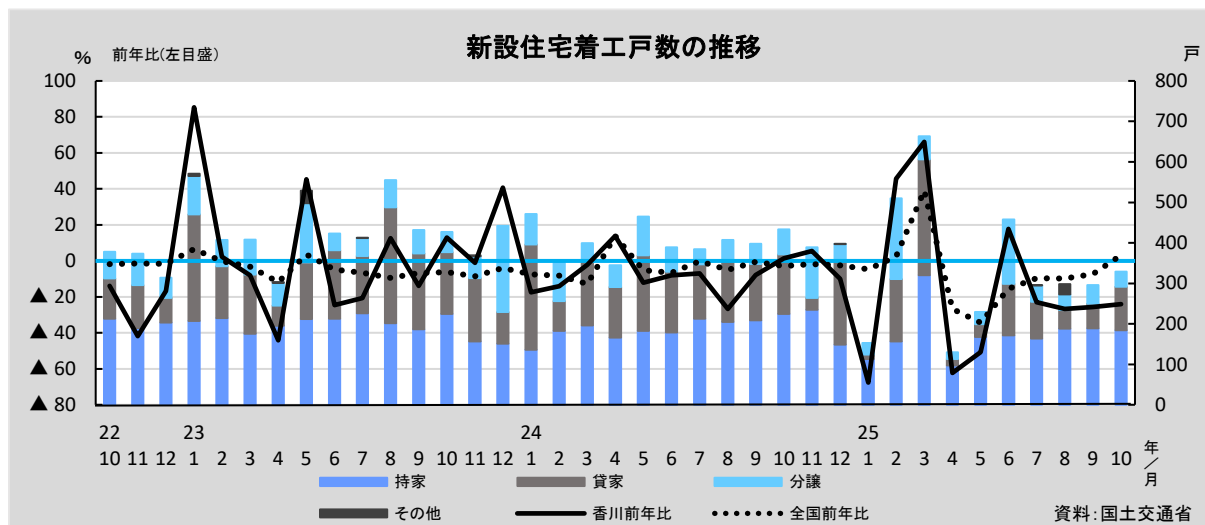
車種別にみると、普通乗用車は前年同月比▲2.5%、小型乗用車は同▲10.5%、軽乗用車は同+17.9%となった。

住宅投資

低調に推移している

●新設住宅着工

4 カ月連続減少



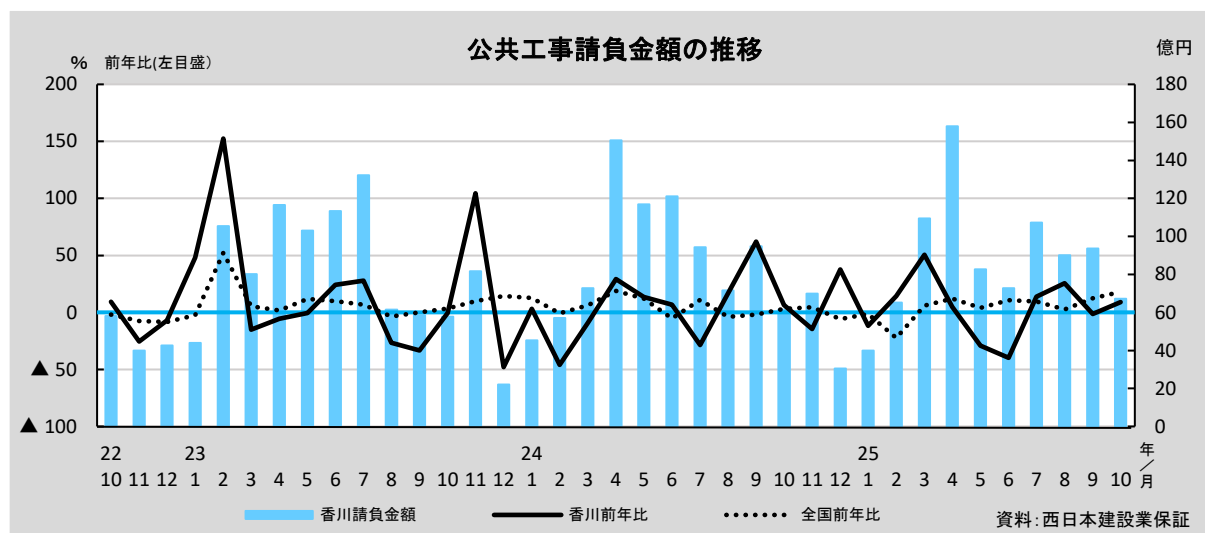
10月の新設住宅着工戸数は329戸で、前年同月比▲24.0%と4カ月連続で減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲18.2%、**貸家**で同▲26.5%、**分譲住宅**で同▲39.3%となった。

公共投資

持ち直しの動きに弱さがみられる

●公共工事請負金額

2 カ月ぶり増加



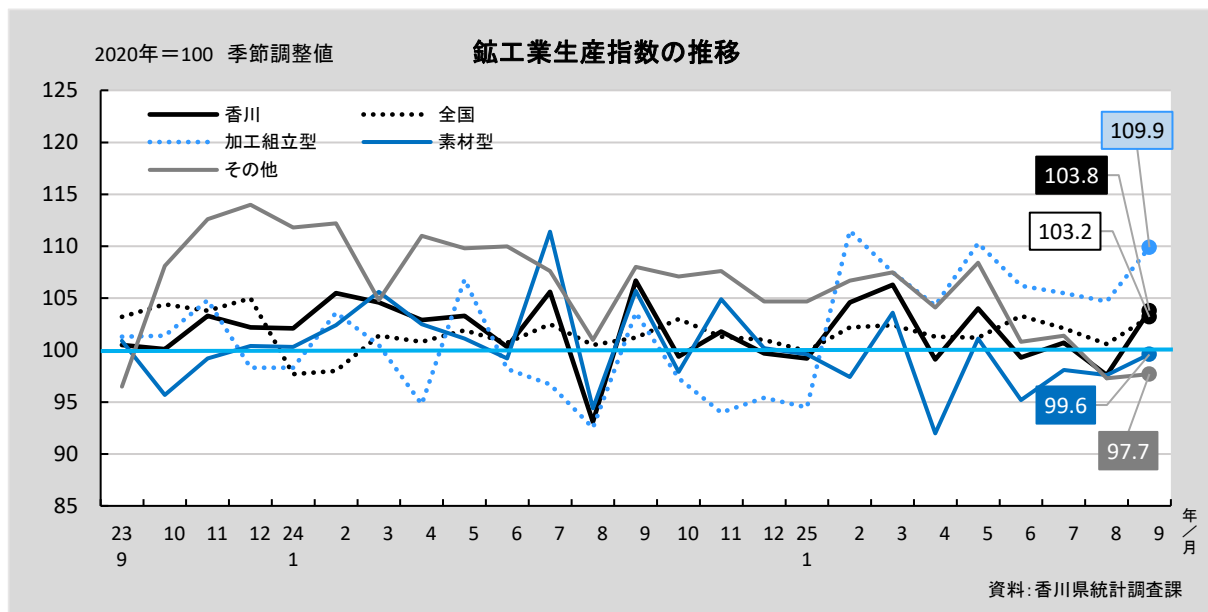
10月の公共工事請負金額は67.2億円で、前年同月比+9.2%と2カ月ぶりに増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+42.0%、**県**で同+25.8%、**市町**で同▲0.1%となった。2025年度(4~10月)の累計では前年同期比▲5.5%と減少している。

生産活動

横ばい圏内の動きとなっている

● 鉱工業生産指数

2 カ月ぶり上昇



9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は103.8（前月97.6）となり、2カ月ぶりに上昇した。

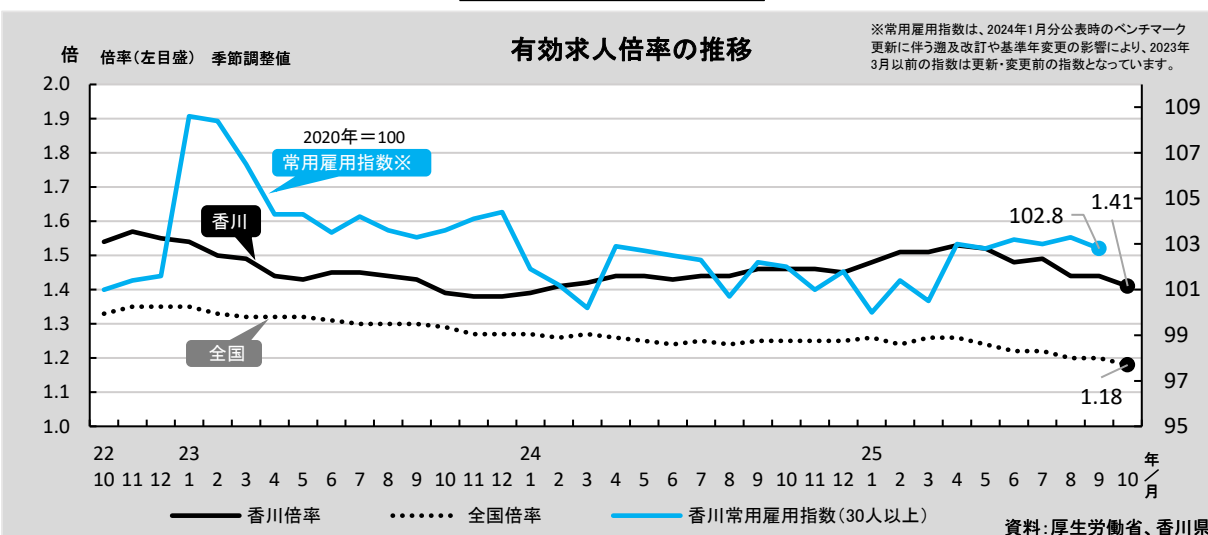
業種別では、素材型の金属製品工業（アルミニウム製建具など）は前月比+16.5%、加工組立型の汎用・生産用機械工業（建設用クレーンなど）は同+4.6%と上昇した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は同▲16.9%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

2 カ月ぶり低下



10月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.41倍（全国5位）で前月より0.03ポイント低下した。

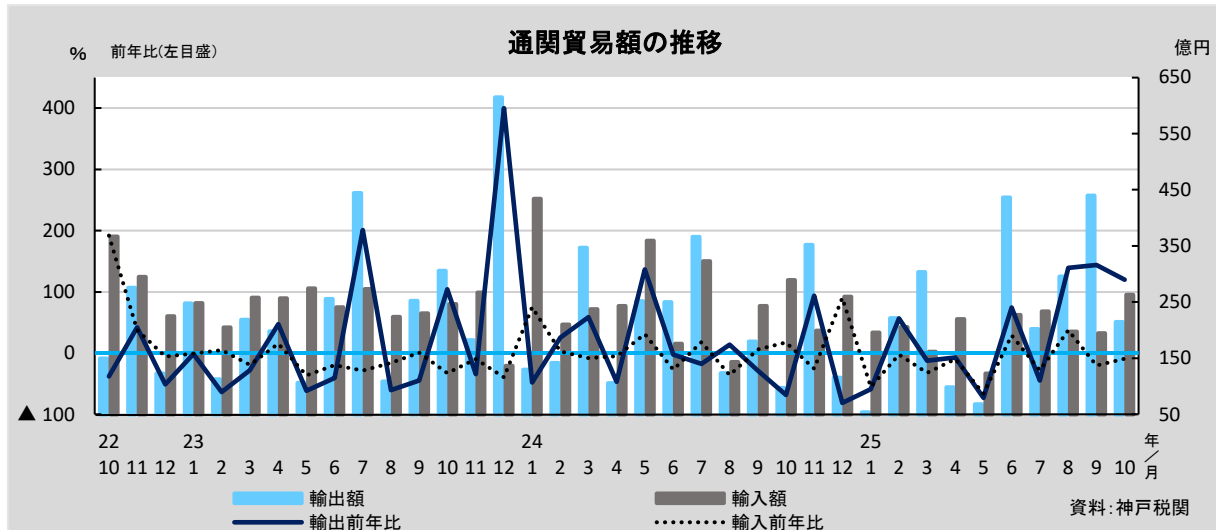
新規求人（原数値：前年同月比）は、卸売業・小売業、医療・福祉、生活関連サービス業・娯楽業等で減少となり、全体で▲1.5%と3カ月連続で減少した。

9月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.8となり、前年同月比は+0.6と8カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.18
事務的職業	0.62
販売の職業	2.24
サービスの職業	3.13
生産工程の職業	2.52
輸送・機械運転の職業	2.37
建設・採掘の職業	5.95
運搬・清掃・包装等の職業	1.23

貿易

輸出は増加、輸入は減少している

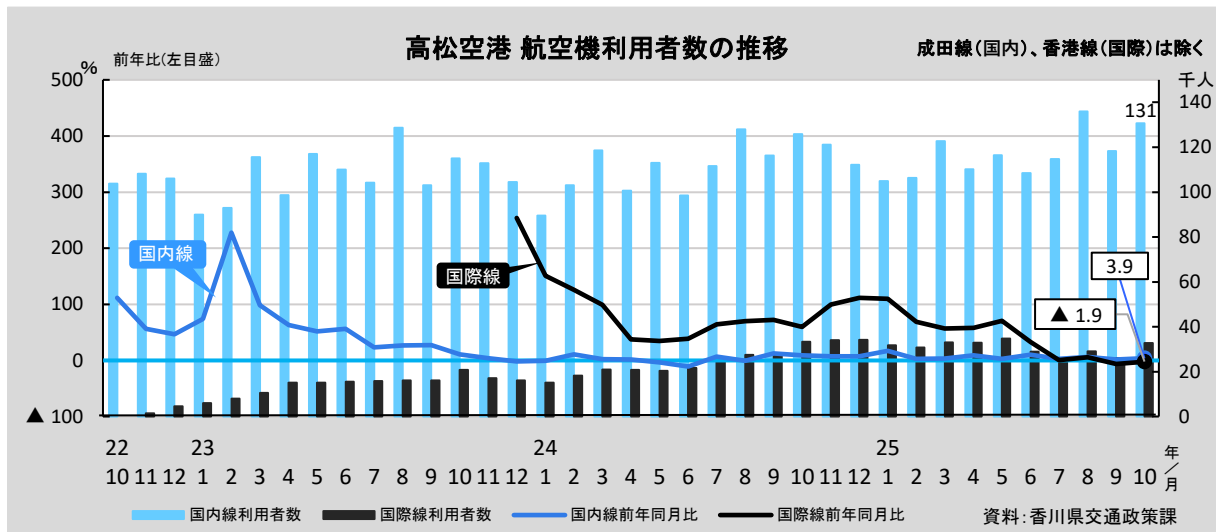


10月の輸出額は前年同月比+120.1%の214.4億円、輸入額は同▲9.2%の262.8億円となり、差し引き48.4億円の入超となった。輸出は前年ゼロだったタンカー輸出額が137億円となり増加に寄与した。輸入は石炭輸入額が前年同月比▲44.6%の56億円となり減少に寄与した。

交通

国内線は14カ月連続増加、国際線は2カ月連続減少

●高松空港旅客輸送実績



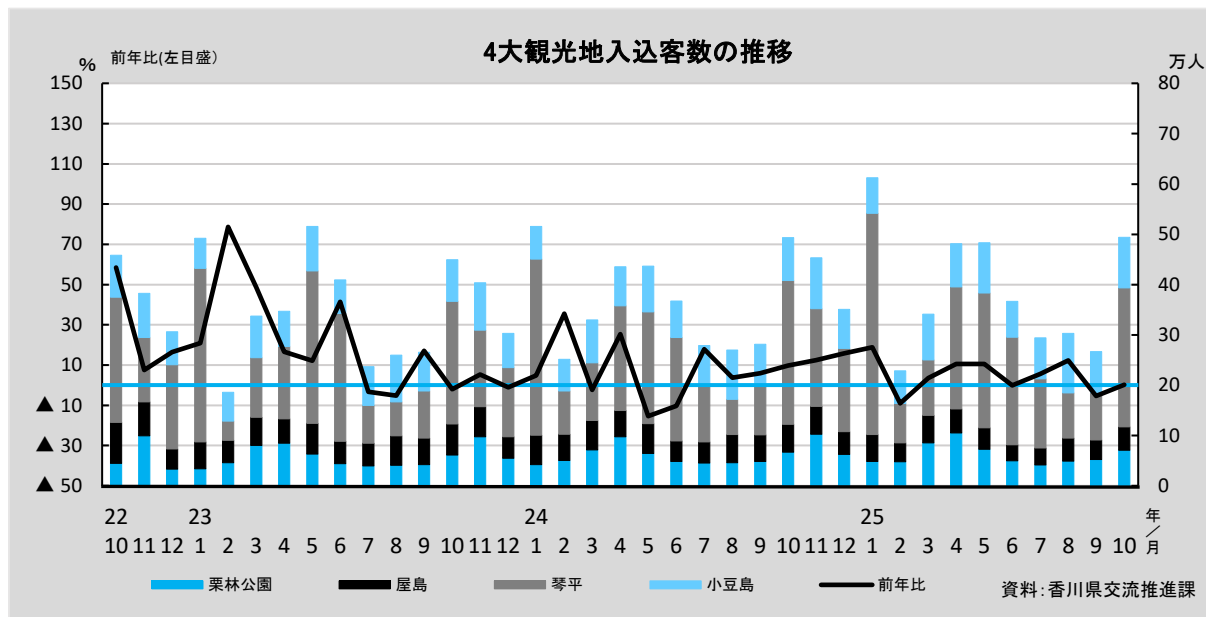
10月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が130,655人(前年同月比+3.9%)となり、14カ月連続で増加した。羽田線は121,331人(同+6.0%)、那覇線は9,324人(同▲17.8%)となった。

国際線は、ソウル線18,385人(同▲14.1%)、上海線4,134人(同▲21.8%)、台北線10,216人(同+53.1%)で合計32,735人(同▲1.9%)と2カ月連続で減少した。

観 光

持ち直しの動きが続いている

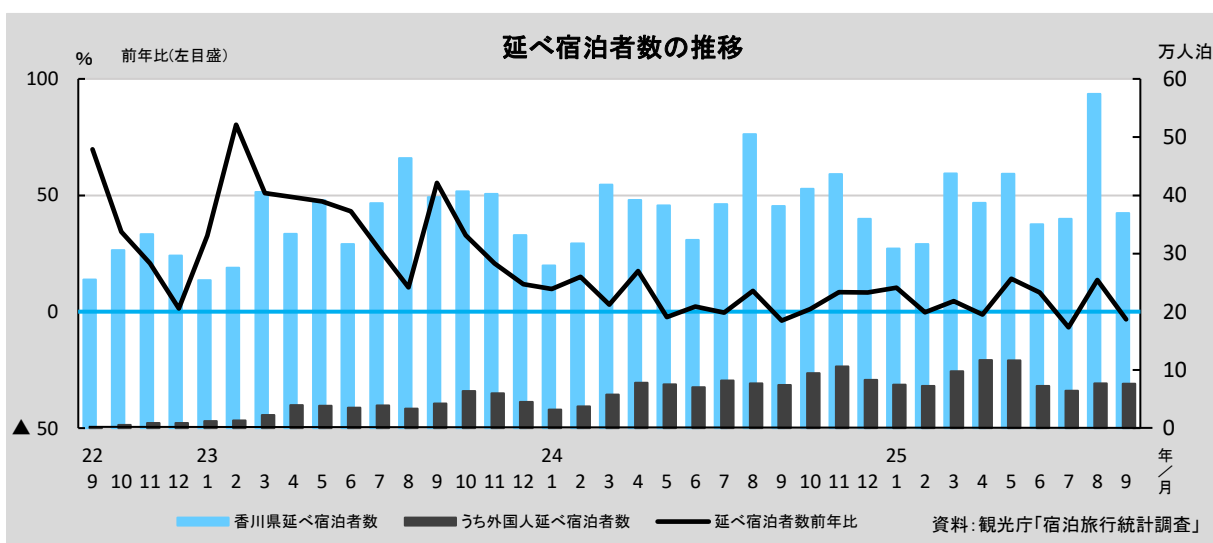
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
10月(人)	前年同月比	70,754	5.6%	46,403	▲16.2%	276,000	▲3.5%	101,170	19.1%	494,327	0.2%
1～10月累計(人)		623,423	7.4%	432,750	▲18.0%	1,949,000	11.3%	867,567	8.3%	3,872,740	5.8%

10月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+0.2%と2カ月ぶりに増加した。栗林公園は前年同月比+5.6%、小豆島は同+19.1%と増加した。一方、屋島は同▲16.2%、琴平は同▲3.5%と減少した。2025年（1～10月）の累計では前年同期比+5.8%と増加している。

●延べ宿泊者数



9月の延べ宿泊者数369,350人泊で、前年同月比▲3.3%と2カ月ぶりに減少した。うち、外国人延べ宿泊者数は76,220人泊となり、前年同月比+3.0%と2カ月連続で増加した。